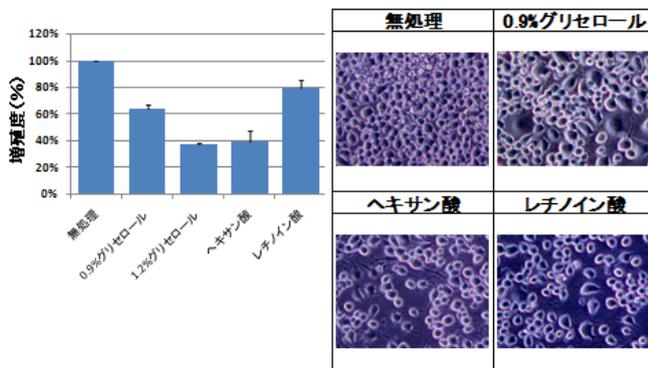


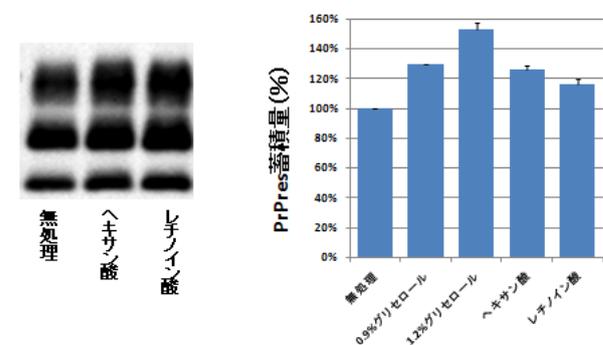
治療薬探索に適したプリオン感染細胞モデルの探索

研究分担者: 東北大学医学系研究科 堂浦克美

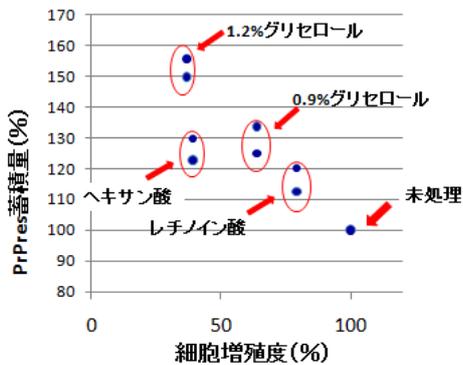
(1) 細胞増殖抑制作用



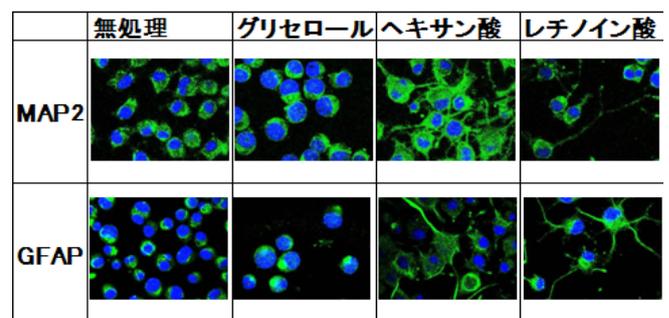
(2) 細胞内PrPres蓄積量



(3) 細胞増殖抑制とPrPres蓄積量



(4) 分化マーカーの発現



解説

1. ビボに近い状態の細胞モデル(分化した状態でプリオンが飽和状態)で治療薬を探索すれば、治療効果に優れた化合物を発見できる可能性がある。そこで、プリオン持続感染細胞を用いて、ポストマイトテックな感染細胞の作製を検討した。
2. ジブチリルcAMPやレチノイン酸を除いて、いずれの処理でも10日間程度は継代しない程度は細胞増殖を抑えた状態を維持できた。(1)
3. 特にグリセロールやブチル酸は細胞増殖抑制効果が高く、かつPrPresレベルも高い状態が観察された。(2)、(3)
4. 細胞増殖抑制効果やPrPresレベルと分化マーカー発現とは関連しなかった。(4)